

令和 8 年 9 月 3 0 日
消 防 庁

消防防災科学技術研究推進制度の令和 8 年度研究開発課題の採択

消防庁では、消防防災分野における課題解決や重要施策推進に資するため、消防防災科学技術研究推進制度（競争的研究費）により研究開発を推進しています。

「消防技術戦略ビジョン」において定める 5 つの重点分野に関する技術について、研究開発課題の公募を行い、採択しましたので公表します。

1 経緯

令和 8 年度通常枠として「消防技術戦略ビジョン」において定める 5 つの重点分野に関する技術について研究開発課題を公募（令和 8 年 4 月 1 5 日～5 月 1 8 日）した結果、4 2 件の応募がありました。

この度、外部有識者による審査結果等を踏まえ、令和 8 年度通常枠の研究開発課題として 8 件の採択を決定しました。

2 採択課題

重点分野① AI の活用による高度な判断支援

○ #7119-119 リアルタイム情報連携プロトタイプと運用有効性検証

（日本電気株式会社）

#7119 で聞き取った相談内容や位置情報を 119 番通報へ迅速に共有するシステムのプロトタイプを構築し、有効性を検証する。

○ AI を活用した消防同意支援システムの研究開発

（株式会社 KK Generation）

消防同意審査において、設計図面の内容や法令適合状況を AI が自動的に確認し、不備や修正が必要な箇所を提示するシステムを開発する。

重点分野② ロボット・ドローンの活用による活動可能範囲の拡大

○ 林野火災等における放水ドローン群の協調運用技術の研究開発

（横浜国立大学）

放水ドローンを含む複数のドローンで放水ホースを吊り下げ、安全かつ効率的に連携運用し、連続放水を実現する技術を開発する。

重点分野③ 人間拡張技術の活用による個人の能力向上

○ 女性消防隊員を支援する安全・労務管理ウェアラブルシステムの開発
(株式会社東芝)

ウェアラブル端末を活用して女性特有の身体負荷や疲労の状況を客観的に把握し、安全管理や労務管理に活用できるシステムを開発する。

○ VR 緊急走行シミュレータを活用した訓練支援システムの開発
(兵庫県立大学)

同大学で開発を進めてきた VR 緊急走行シミュレータを発展させ、AI を活用したフィードバックなどの訓練を支援するシステムを開発する。

重点分野④ IoT 技術の活用による連携体制の強化

○ 生成 AI 搭載スマートグラスを用いた救急活動の記録作業の省力化と共有システムの開発
(京都橘大学)

生成 AI を搭載したスマートグラスにより、指令センター、救急隊及び医療機関がリアルタイムに情報を共有するとともに、救急現場で聴取した情報を自動的にテキスト化し、記録作業を省力化するシステムを開発する。

重点分野⑤ CBRNE テロや災害等への備えなど被害の軽減

○ 救助活動における爆発物を活用した障害物除去技術の運用モデルの構築
(熊本大学)

消防機関と連携した実証及び訓練を通じて、救助活動における爆発物を活用した障害物除去技術の安全条件と活動手順を明確化し、現場で活用可能な運用モデルを構築する。

○ 溶接部の半自動き裂検査装置の開発
(横浜国立大学)

溶接部におけるき裂検査の半自動化と検査結果のデジタル化を可能とする検査装置を開発する。



< 担当 >

消防庁総務課技術戦略室

中嶋 ・ 関 ・ 鈴木 ・ 市川

Tel : 03-5253-7541

Mail : gisei2_atmark_ml.soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を
「_atmark_」と表示しております。

送信の際には、「@」に変更してください。